

「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」 第57回（通算第136回）定例会 会議録

- ◆日時：令和3年9月21日（火） PM7：05～8：00
- ◆場所：田辺市民総合センター 1F 機能訓練室
- ◆出席者： 21名

別紙のとおり

1. 「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」定例会について

【19：05～20：00】

19：10～ 開 会

19：10～19：40 研 修

「ICTを促進する（株）ヤマシタ」
～AI活用と科学的根拠の促進～

報告：株式会社 ヤマシタ 田辺営業所
所長 荻久保 雅人氏

19：40～20：10 意見交換

20：10～20：30 発表および質疑応答

20：30 閉 会

【研修内容】

●ケアコチ「AI活用してスマホで歩行解析」

- ・スマホで歩いている姿を後ろから撮影するだけ。解析内容 ①転倒リスクマップ ②歩行の総合点数 ③速度 ④リズム ⑤ふらつき ⑥左右差 データとして可視化されるシステム
- ・利用者によりよいサービスを提供するため、ケアマネジャーやサービス事業所の方々との連携は必須。きめ細かな「報告・連絡・相談」で信頼関係を構築し、サービスの質を高める
- ・現時点ではヤマシタでしかできないが、興味がある方は連絡していただければデモ活用はできる
- ・歩容解析結果は別紙のとおり
- ・結果をもとにトレーニング方法などの改善方法を提示できる
- ・福祉用具貸与事業者がお役に立てることは？
 - ①AIやICTは補助的なサポート、最終《人》の知見が何よりも大切なコト
→業務効率できるところをAIがサポート。空いた時間をさらに手厚いアセスメントやケアマネジメント、介護サービス提供できれば・・・
 - ②退院・退所加算について
→加算算定要件であるカンファレンスに、退院・退所時のスムーズな福祉用具貸与の利用を図る観点から、必要に応じ福祉用具専門相談員や作業療法士等が参画することを明確化する

- ③ 私たちに必要なことは連携であり、お手伝い、エビデンスの提供
→ ケアコチを活用することで、ケアマネやセラピスト、医師や看護師との連携し、利用者の転倒リスクを把握・共有し、最小限にすることができればと考えています

いつでもお声かけください。一度、このシステムをご活用してみてください。

By (株) ヤマシタ

【意見交換】

● 歩行ツールについて

- ・ 紹介してくれたシステムは可視化ができ数値化できるのがよい。
- ・ 在宅で動画や写真を活用することがあまりなかったのが、カンファレンスの場などでの活用などが有効であると思う。
- ・ データは利用者のモチベーションにつながる。・ 歩行速度を測定しているが、張り切ってしまう人もいるのではないかと
- ・ どこか悪いところがあると、歩行姿勢で左右のかたよりが生じる。前後の比較に使用するとよいのでは
- ・ 現時点ではヤマシタさんのシステム利用しかできないのが残念。自分たちで動画を撮ってできるというのに。
- ・ 歩行に問題のない動ける人に特に有効だと思うので、介護予防事業やサロン活動で活躍すると思う。
- ・ 測定に5mのスペースを取るの自宅では難しいかも
→ 解析制度は落ちるが、2~3mでの大丈夫
- ・ 個人情報の使用にあたっては同意書もらうようにしている
- ・ エビデンスが確立されると、点数によっては“この福祉用具の活用はおかしい”と利用制限や適正化に活用されるのではないかと心配はしている。

● ICTについて思うこと

- ・ コロナ禍において、研修のツールとして進んだと思う
- ・ 情報共有ツールを使ってスタッフ間で共有している
- ・ プリントアウトできるとなるとよい。
- ・ FAXはもはやアナログ
- ・ 持ち運べる端末ではセキュリティの問題で導入が難しい。
- ・ そもそもインターネットやPCと機器の接続などが難しいので、個人がどこまでできるかは気になる
- ・ 事業所としては、ICTを活用で切り環境を整えることがまず第一。難しい背景もある。
- ・ メリット・デメリットを理解しておく必要がある。

(ちなみに)くろしおNETについて思うこと

- ・ 利用者にメリットを伝えにくいので導入に慎重になる
- ・ 手軽じゃない

※定例会開催にあたっての感染症対策

- ・ 体調確認と非接触型温度計による体温測定
- ・ 手指消毒
- ・ マスク着用
- ・ 定例会後の机、いすの消毒
- ・ 換気

【次回の定例会】

→以下の日程で実施する。

日時：令和3年10月19日（火） 午後7時～

場所：田辺市民総合センター 1F 機能訓練室

内容：民間救急の情報提供